

学校法人 滋慶学園 福岡ウェディング&ホテル・IR専門学校 学校関係者評価委員会 会議資料

【令和5年6月14日実施】

令和4年度自己点検自己評価(令和4年4月1日～令和5年3月31日)による

学校関係者評価委員氏名 【 】

大項目	点検・評価項目	自己評価	点検・評価項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)	評 価	学校関係者評価委員よりの御意見
		適切に対応・・・4 ほぼ適切に対応・・・3 やや不適切・・・2 不適切・・・1			適切に対応・・・4 ほぼ適切に対応・・・3 やや不適切・・・2 不適切・・・1	
1 教育 理 念 ・ 目 的 ・ 育 成 人 材 像	1-1 理念・目的・育成人材像は定められているか	4	【1-1-1】 滋慶学園グループ・福岡ウェディング&ホテル・IR専門学校としての理念・目的育成人材像はしっかり定められている。 ※2023年4月より福岡ホテル・観光&ウェディング専門学校へ校名変更 【1-1-2】 ウェディング・ホテル・エアライン・観光及びホスピタリティ業界に求められる人材育成の為に、開校以来、様々な業界と産学連携教育を実施。業界で求められる技術・知識など「実学教育」また、あいさつやコミュニケーション力、社会で職業人になる為に必要な身構え・気構え・心構えを身に付ける「人間教育」、国際的な感性を養う「国際教育」を実践し業界等の人材ニーズに適合させている。 【1-1-3】 産学連携教育・企業プロジェクトとして企業から課題を頂き考えプレゼンテーションし新しい価値・商品を創造する教育、また実際に接客などの実体験として学べる教育に取り組んでいる。 【1-1-4】 コロナの影響でホスピタリティ業界は大きな影響を受け、人の移動・集合等の行動制限がかかり、これまでの結婚式・旅行・ホテルなどの仕事に大きな影響があった。しかし、新しい価値として、少人数での結婚式や旅行など新しい商品もうまれてきて、仕事の内容、形態も変化してきた。 更に2025年に予定されている大阪万博、各地のIR事業に向け、国内にはホテル建設ラッシュも始まっており、それらには新しい人材が必要になることが明確。中でも外資系ホテルが多く建設されることや、これからの日本における国際性の大切さも視野に入れ、より、英語教育とホスピタリティ教育を強化した人材育成が必要と考える。	「学校法人滋慶学園グループ」 昭和51年の創立以来、「職業人教育を通じて社会に貢献する」ことをミッションに掲げ、全国に専門学校・教育機関を設置し、業界で即戦力となる人材育成のため、建学時から変わらない「3つの理念」(実学教育、人間教育、国際教育)と「4つの信頼」(業界からの信頼、高校の先生からの信頼、学生・保護者からの信頼、地域からの信頼)を実践することで、理想の教育を目指す。 「実学教育」 スペシャリストが求められる時代に即し、業界に直結した専門学校として、即戦力となる知識技術を教授する。ひとり一人の個性を活かし、それぞれの業界で力が発揮できるように構築された『滋慶学園グループ独自の教育システム』。 「人間教育」 開校以来、『今日も笑顔で挨拶を』を標語に掲げ、他人への思いやりの気持ちやコミュニケーション能力、リーダーシップがとれる対人スキル等を身につけ、同時にプロ・社会人としての身構え、心構え・気構えを養成する。 「国際教育」 コミュニケーション言語としての英語を身につけるだけでなく、日本人としてのアイデンティティを確立した上で、広い視野でモノを捉える国際的感性を養う。 ◆福岡ウェディング&ホテル・IR専門学校としてのコンセプト 「ホスピタリティ」「ホテル」「観光」「ウェディング」「エアライン」業界とともに圧倒的なホスピタリティ・英語教育を通して、業界に求められる人材育成を行う。学生ひとり一人を大切に、卒業後の未来創造とスタッフひとり一人が学生、職員間すべてに思いやりを持ち考え行動する組織。	4	・この業界は相手の身になって対応することが最も重要であり、人間教育をしっかり進めてもらいたい。 ・業界で3年、5年後にキャリアアップに必要なスキルを身に着ける授業が少ないと感じる。(マーケティング力、マネジメント力、サービスで稼ぐ力 等) ・学校理念・目的が明確であると感じた。コロナの影響で制限があったと思うが、理念・目的が明確であることでより力強い行動へ結びついていると感じた。 ・福岡でもホテルが多く建設されており、国際性に目を置き教育されているのはとても良い。
	1-2 育成人材像は専門分野に関連する業界等の人材ニーズに適合しているか					
	1-3 理念等の達成に向け特色ある教育活動に取り組んでいるか					
	1-4 社会のニーズ等を踏まえた将来構想を抱いているか					
2 学 校 運 営	2-1 理念に沿った運営方針を定めているか	4	【2-2-1】 運営方針は、滋慶学園の理念に沿って定めている。 【2-3-1】 理念等を達成するために5年後を見据えた年度毎の事業計画を定めている。 【2-4-1】 本校の運営方針や収支予算・決算などは滋慶学園の理事会において承認を受け適切に運営を行っている。 【2-4-2】 人員構成、組織図、職務分掌を毎年の事業計画の中に作成し、役職毎の職責内容や職務権限を明確にしている。また滋慶学園グループの中期・短期の事業計画に沿って採用を行い、定期的にJESC(滋慶教育科学研究所)によるFD研修やグループ・学校主催の様々な人材育成のための研修を行っている。 【2-5-1】 人事・給与に関しては法人総務部と滋慶サービスで制度を確立しており、人事データバンクシステムや勤怠管理システムなどを活用しながら働き方改革にも取り組んでいる。 【2-6-1】 意思決定システムはプロセスに応じた会議・決裁者・最終決裁者を設定している。様々な目的により会議や委員会などを定期的に実施し滋慶学園グループの方針の確認・共有や企画立案、状況報告、連絡相談の場を設けている。 【2-7-1】 情報システム化について、滋慶学園業務システムを構築し、一人ひとりの学生が学園の資料請求から入学、在学中の出欠管理、カウンセリング内容、就職までの情報を一元化している。総務・経理では勤怠管理システムや予算管理システムを導入し業務の効率化を図っている。	■事業計画書の内容は以下の通り Ⅰ．組織の目的 Ⅱ．組織の運営 (1)計画体系 1. 運営方針 2. 目標(定量的目標、定性的目標) 3. 実行方針 4. 実行計画 ① 組織図、② 人員構成、③ 職務分掌、④ 働き方改革、⑤ 研修計画、⑥ 広報計画、⑦ 年間スケジュール (2)仕組みとルール 1. 業務決済 2. コミュニケーション、会議、委員会 3. 評価・編成委員会 Ⅱ．5年後の将来、学科・コースのイノベーション、新規事業 自己点検・自己評価 更に単年から5年後の収支予算書を持って事業計画書としている。 本校における事業計画は、広報・教務・就職など、学校における全ての部署について立案され、コンセンサスを取る為、全ての部署が同じ方針・同じ考え方をもって、全スタッフ協力の下、目標達成に向けて学校運営がなされる。朝礼時に、滋慶学園グループの理念を明文化した「滋慶語録」の読み合わせを行うとともに、マネージャーによる解説を加え、理念の周知徹底に取り組み、理念に沿った適切な組織運営を図っている。 【滋慶学園7つの視点】 ①攻めと守りの視点 ②グローバルな視点 ③一人ひとりを見てゆく視点 ④企業・業界・社会を見てゆく視点 ⑤事業運営力を持つ視点 ⑥スタッフが成長していく視点 ⑦理念・コンセプト徹底の視点	4	・7つの視点①について具体的な授業項目が見えない。 ・5年先を見据えた事業計画の策定等、しっかりと将来を見据えた計画がされていると感じる。
	3-1 理念等を達成するための事業計画を定めているか					
	4-1 設置法人は組織運営を適切に行っているか					
	4-2 学校運営のための組織を整備しているか					
	5-1 人事・給与に関する制度を整備しているか					
	6-1 意思決定システムを整備しているか					
	7-1 情報システム化に取組み、業務の効率化を図っているか					

学校法人 滋慶学園 福岡ウェディング&ホテル・IR専門学校 学校関係者評価委員会 会議資料

【令和5年6月14日実施】

令和4年度自己点検自己評価(令和4年4月1日～令和5年3月31日)による

学校関係者評価委員氏名【 】

大項目	点検・評価項目	自己評価	点検・評価項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)	評 価	学校関係者評価委員よりの御意見
		適切に対応・・・4 ほぼ適切に対応・・・3 やや不適切・・・2 不適切・・・1			適切に対応・・・4 ほぼ適切に対応・・・3 やや不適切・・・2 不適切・・・1	
3 教育活動	8-1 理念等に沿った教育課程の編成方針、実施方針を定めているか	4	【3-8-1】 「職業人教育を通して社会に貢献する」という滋慶学園グループのミッションの下、建学の理念である「実学教育」「人間教育」「国際教育」に基づいて教育課程編成方針・実施方針を定め、教育を行っている。 【3-8-2】 学科ごとに教育到達レベルを明確に設定し、学生便覧及び教育指導要領に記載するとともに、HPにもアップしている。加えて、すべての科目のシラバスをHPにて公開している。 【3-9-1】 滋慶学園グループ五カ年計画の下作成する学校全体の事業計画に基づいて、教務部としての事業計画を立案し、養成目的と到達目標を明確にし、それに沿った教育課程を編成し、計画的に教育を行っている。 【3-9-2】 業界のプロである講師からの情報や企業訪問で得た情報、就職先からの情報はもちろん、年2回開催している教育課程編成委員会等を最大限活用して、業界のニーズを的確に捉え、その変化に対応して養成目的や教育目標、カリキュラムの改善を常に実施し、イノベーションを図っている。 【3-9-3】 実学教育として技術・知識を身に付ける「専門職業教育」に加え、人間教育として職業観・勤労観や仕事に対する身構え・気構え・心構えを身に付ける「キャリア教育」双方を兼ね備えた教育を行っている。このキャリア教育は、授業、実習、就職、イベント、生活指導などあらゆる機会を捉えて実施している。 【3-9-4】 前期終わり、後期終わり年間2回、学生に授業アンケートを実施し、授業評価を行いながら学生の授業に対する満足度の把握・向上に努めている。 【3-10-1】 成績評価、進級・卒業認定基準は学則で明確に決められており、学生便覧及び教育指導要領に記載。学生、教職員、講師に周知徹底している。そして、進級判定会議や卒業判定会議を通して適切に運営されている。 【3-10-2】 卒業・進級制作展において学生の研究課題や企業プロジェクトの発表、JESC奨励賞審査会を開催し年度毎に行なったプロジェクトを企業様にプレゼンテーションし評価いただいている。 【3-11-1/3-11-2】 目標とする資格・免許は教育課程上で明確に位置づけられており、同時に指導体制も設けている。学校パンフレット、学生便覧、教育指導要領等に明記し、学生・教職員・講師に周知している。 【3-12-1】 担任は業界経験者でもあり、またそれぞれの業界で現役で活躍する講師が在籍している。 【3-12-2/3-12-3】 教職員の資質向上の取り組みとして、JESC(滋慶教育科学研究所)主催のFD(ファカルティディベロップメント)研修やカウンセリング研修を行っている。学校長・副校長の監督のもと、教務部長を中心に学科長、主任及び各専攻一人以上の責任者を配置している。	教育理念でもある、「実学教育・人間教育・国際教育」を基に、「学生・保護者からの信頼」「高等学校からの信頼」「業界からの信頼」「地域からの信頼」4つの信頼に努め学校運営を行っている。 滋慶学園グループは、全職員の目標として 1. 専門就職率 100% (就職者／専門分野就職者) 2. 退学率 0% (入学者は全員卒業してもらう) を掲げ、その達成のために構築した2つの重要なシステムを構築している。 ■入学前の自己発見→自己変革→自己確立という、自己3段階教育と、動機づけ・目的意識づけプログラム。 入学前からの一貫した育成システムと目的意識をもって取り組むプログラムの組み合わせにより、モチベーション向上を果たしている。 ■即戦力としての実践的技術・知識、ビジネスマインド等を身につけるための教育システム「産学連携」である。 ①企業プロジェクト ②ダブルメジャー・カリキュラム ③業界研修 ④海外実学研修 ⑤特別ゼミ ⑥特別講義 教職員の授業改善におけるFD研修をグループ全体で取り入れ、教員の専門性を向上させる努力をしている。 成績評価・単位基準に関しても年度ごとに見直しをしながらよりの確な評価が出来るようにしている。	4	・毎年カリキュラムが違い戸惑うことがある。5年計画でしっかりとしたシラバス作成の方針を打ち出していたきたい。 ・即戦力が現状の業界のニーズと会っていないと感じる。キャリアアップを見せることを増やす機会が大切。 ・理念である「実学教育」「人間教育」「国際教育」に共感している。実現に向け様々な教育を行っている。 ・私が2年次の時はコロナが蔓延しており、インターンにあまりいけなかった。もっとたくさんの現場を見る機会があれば良いと思う。
	8-2 学科毎の修業年限に応じた教育到達レベルを明確にしているか					
	9-1 教育目的・目標に沿った教育課程を編成しているか					
	9-2 教育課程について、外部の意見を反映しているか					
	9-3 キャリア教育を実施しているか					
	9-4 授業評価を実施しているか					
	10-1 成績評価・修了認定基準を明確化し、適切に運用しているか					
	10-2 作品及び技術等の発表における成果を把握しているか					
	11-1 目標とする資格・免許は、教育課程上で、明確に位置づけているか					
	11-2 資格・免許取得の指導体制はあるか					
	12-1 資格・要件を備えた教員を確保しているか					
	12-2 教員の資質向上への取り組みを行っているか					
4 教育成果	13-1 就職率の向上が図られているか	3	【4-13-1】 就職希望者全員の第一専門職への就職を目標とする。その為に、担任とキャリアセンタースタッフが学生の就職活動状況を詳細に把握し、ひとり一人に対応した就職支援を行うと共に、就職セミナーなどの支援イベントを実施している。また、開校以来、キャリアセンターで全ての情報を管理している。 【4-14-1】 担任や講師による日頃からの細やかなサポート及び試験対策などの学習支援を行い、資格合格率向上への取り組みを計画的に実施している。 【4-15-1】 産学連携教育の実践により授業や特別講義、企業プロジェクトを通して業界の方々や卒業生から就職の状況把握をしている。また、定期的な企業訪問を重ね卒業生の活躍を把握し、社会的評価を把握するようにしている。 コロナ禍の影響で同窓会の開催をオンラインでの実施に工夫するほかに、卒業生の転職相談や支援に力を入れている。	本校では第一専門就職率100%を達成するため、キャリアセンターを中心に、就職情報の管理等のシステムを構築している。 また就職支援のためサクセスナビシステムで姉妹校との情報共有や合同企業説明会などでグループ力を活かしたサポートを行っている。 単独企業説明会面接会で学内選考できる機会の誘致を強化させている。 【資格取得への取組(取得結果)】 ・ブライダルコーディネート技能検定: 90.6%(30名/32名) 昨年: 82.6% (43名/52名) ・アマデウス検定: 80%(4名/5名) 昨年: 62.5% (5名/8名) ・ホテルビジネス実務検定: 42.8%(3名/7名) 昨年: 30%(3名/10名) ・フォーマルスベシヤリスト検定2級: 受験なし 昨年: 100%(6名/6名) ・マナープロトコール検定3級: 50.0%(4名/8名) 昨年: 78.5% (11名/14名) ・実用英語技能検定 [2 級] 20%(2名/10名) 昨年: 100.0%(1名/1名) [準2級] 27.8%(5名/18名) 昨年: 37.5%(3名/8名) [3 級] 58.3%(7名/12名) 昨年: 0%(0名/2名) 【退学低減への取り組み】 《全体》8.9%(11名) 《新入生》12.8%(6名) ブライダル系2名、ホテルエアライン系4名 《進級生》8.3%(5名) ブライダル系2名、ホテルエアライン系3名 今後は昨年から教務全スタッフが新しくなりひとり一人を大切にしてい一人もDOを出さないように取り組んでいる。特に担任だけでなく全体でサポートしながら学生の満足度UPを目指していく。	3	・就職を目指すためには資格取得が大事な要素なので、しっかりその取り組みを行っていただきたい。 ・検定授業の充実を強化していただきたい。 ・就職先をもう少し営業してほしい。 ・就活において業界の企業の講師をもっと活用すべき。 ・退学理由を明確にし、今後の退学低減につなげていってほしい。 ・ホテルビジネス実務検定の合格率が低いようなので学生へのサポートが出来ればと思う。 ・検定の授業が多くなってしまうが、短期集中で行った方が学生も必死になって取り組むと思う。 ・学生一人一人のモチベーションで退学率は変わってくると思う。モチベーションを保つために何をするべきか考えていただきたい。
	14-1 資格・免許の取得率の向上が図られているか					
	15-1 卒業生の社会的評価を把握しているか					

学校法人 滋慶学園 福岡ウェディング&ホテル・IR専門学校 学校関係者評価委員会 会議資料

【令和5年6月14日実施】

令和4年度自己点検自己評価(令和4年4月1日～令和5年3月31日)による

学校関係者評価委員氏名【 】

大項目	点検・評価項目	自己評価	点検・評価項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)	評 価	学校関係者評価委員よりの御意見
		適切に対応・・・4 ほぼ適切に対応・・・3 やや不適切・・・2 不適切・・・1			適切に対応・・・4 ほぼ適切に対応・・・3 やや不適切・・・2 不適切・・・1	
5 学 生 支 援	16-1 就職等進路に関する支援組織体制を整備しているか	4	【5-16-1】 専門分野での就職を第一に考え、就職の専門部署であるキャリアセンターを設け、専門スタッフが個別指導から就職イベント開催まであらゆる就職支援を行っている。また、インターネットによる求人アクセスや情報のメール送信、就職指導ノートの作成まで、情報、ノウハウ体制の確立を行っている。	【就職等進路】 企業を校内へ招聘する「合同企業説明会」「単独企業説明会」や等の就職イベントを開催。 また、業界研修指導まで、学生の為のあらゆる支援として、キャリアセンターが独自の活動を行っている。	4	・担任が学生一人一人に寄り添い、手厚い対応をしている。非常勤の講師ともコミュニケーションがとれていると感じる。 ・学生の相談や悩みを業界の人間として対応できると考えているが、学生の現状が見えていない為、対応が難しくその機会がない。 ・学生の立場、保護者の立場に立ったきめ細やかな支援が行われていると感じた。 ・退学率低減の項目にもあったが、分析等を活用しながら今後へつなげていっていただきたい。 ・自身もキャリアセンターの先生には相談などをたくさん聞いてもらうことが出来た。環境づくりができていると思う。
	17-1 退学率の低減が図られているか		【5-17-1】 本校は担任制度を引いており、担任を中心にポートフォリオや個別面談等を駆使して一人ひとりの学生に対して細やかな支援を行っている。また、退学理由の分析や退学防止対策、成功事例などについて研修や勉強会を随時実施し担任力の向上を図ると共に、滋慶学園グループ独自の支援機関や支援制度を活用して退学率の低減に努めている。	【学生相談】 平成24年度から滋慶学園福岡8校で統一で運営し、滋慶トータルサポートセンター福岡として運営を行っている。ここは専用の場所を学校とは別の場所に設け、相談しやすい環境を整えている。また自習スペースもここに設けて、学校に来れないような学生が、ここで学習することが出来る環境を整えている。また法にのっとり、必要であれば合理的配慮も行っている。		
	18-1 学生相談に関する体制を整備しているか		【5-18-1/5-18-2】 学生の相談については、基本的には担任が行うが、担任にも相談できないと考えた場合はJTS(滋慶トータルサポートセンター)という部署を設け、その解決にあたっている。留学生に対しては、担当を設け、在籍管理や生活指導を行っている。	【経済支援】 日本学生支援機構の奨学金紹介のみならず、高等教育の修学支援制度、学園としての滋慶奨学金を用意している。また、災害支援策もっており学費減免措置を実施。		
	18-2 留学生に対する相談体制を整備しているか		【5-19-1】 学生支援機構の奨学金のほか、学園グループ独自の奨学金として、「滋慶奨学金」を用意している。また「学費サポートプランのご案内」の冊子を作成すると共に、分納や延納などすべての経済的支援ができるように努めると同時にデータの管理もコンピュータ管理できている。	【健康管理】 慶生会クリニックは、学生であれば診療料は、学生の健康管理費から負担されるため、何度でも安心して受診することができる。		
	19-1 学生の経済的側面に対する支援体制を整備しているか		【5-19-2】 健康診断の他に、健康面をサポートする目的で学校グループで慶生会クリニックという歯科、内科の2診療科目のクリニックを運営している。	【課外活動】 姉妹校連携クラブ活動だけでなく、学生発案による同好会も発足しており、活発に活動している同好会も多くある。		
	19-2 学生の健康管理を行う体制を整備しているか		【5-19-3】 グループ企業のジケイスペース㈱により、専用寮を運営・管理しており、学生指導をはじめ、利用状況や充足数などの情報も明確になっている。	【生活環境支援】 学生及び保護者から費用が高額であるとの意見が多く、全室埋まらない寮がある。設備やサポート等、費用以上の価値をもっと伝えていく事が重要である。		
	19-3 学生寮の設置など生活環境支援体制を整備しているか		【5-19-4】 福岡の姉妹校合同でクラブ活動に取り組んでおり、予算管理から引率や大会への参加や年間の成績管理などクラブ活動担当者により行われている。	【保護者との連携】 担任は日頃から学生だけではなく、保護者とも連絡をとるように心がけています。また、保護者会、三者面談等も実施し、常に保護者とも適切な連携をとることを重要と考えている。今後は入学前からの連携も必要と考える。このようなことが、退学率の低減に結びついていると考えている。		
	19-4 課外活動に対する支援体制を整備しているか		【5-20-1】 保護者から大切なお子様を預かって育てているということを忘れず意識し、保護者への連絡と連携が重要である。本校では、4つの信頼というコンセプトを掲げているが、「学生・保護者の信頼」として、保護者の信頼を得ることもその1つであり、そのためには適切な連携をとることが重要である。	【卒業生・社会人】 就職後の状況確認を行い、奨学金返還のサポートや再就職のサポートを実施している。また、全国の求人を姉妹校と連携していますので、広い視野での転職サポートも可能です。		
	20-1 保護者との連携体制を構築しているか		【5-21-1】 学校の評価は、卒業生が業界で活躍することに直結するため、まずは卒業生の卒後動向をしっかりと管理できる体制が必要である。そのための同窓会組織を作り、年に一回同窓会総会を実施して情報収集や卒業生間の交流を図っている。2021年度に関しては、コロナの問題で開催を断念せざるを得ない状況でした。			
	21-1 卒業生への支援体制を整備しているか		【5-21-2】 卒業生に対する支援としては、定期的・継続的に卒後教育を実施すると共に、年1回同窓会を実施し、情報の共有を図っている。			
	21-2 産学連携による卒業後の再教育プログラムの開発・実施に取り組んでいるか		【5-21-3】 社会環境の変化に応じて、常に学科、コース、教育内容等のイノベーションを図り、社会のニーズを踏まえた教育環境を整えている。			
	21-3 社会人のニーズを踏まえた教育環境を整備しているか					
6 教 育 環 境	22-1 教育上の必要性に十分対応した施設・設備・教育用具等を整備しているか	4	【6-22-1】 施設、設備は、業界の実情に合わせたものと、最新の機材を取り入れて、授業使用において学生に十分に用意されており、不足があれば毎年の設備計画の中で充足が計られている。また、設備点検や補修なども、サポート企業と密接に連携した上で、毎年必要に応じた整備がなされており、そのための予算の確保も長期的な計画をたてて問題なく運営されている。	【施設・設備等】 学園グループの関連企業のジケイスペース㈱は、学校施設の環境・衛生・点検・補修・改修を担う企業であり、予算を含めて単年から中・長期的な観点で学校のサポートを行っている。また同じ㈱ビスタアーツはPC環境メンテナンスにおいて常に学校と共に整備を行っており、学生の学習環境を支えている。	4	・インターンシップに行く前の授業が必須だと感じている。 ・素晴らしいと感じる。 ・環境、設備等は学生がより良い状態で勉強ができる環境を整えていると感じた。 ・設備がきれいであり新しいことは学生にとってもモチベーションをあげるきっかけになる。入学者を増加させることにもつながるのでは。
	23-1 学外実習、インターンシップ、海外研修等の実施体制を整備しているか		【6-23-1】 学外実習、インターンシップ、海外研修は十分な体制をひいており、学生への案内も周知徹底し、研修後の教育効果の確認も出ている。また、それぞれの業界のプロとして、現場経験豊富で高い技能を有した優秀な人材を常に発掘して、講師として就任して頂いている。	【学外学習、インターンシップ等】 インターンシップは単なる学習効果だけではなく、社会人としての意識の向上につながっており、また学生本人が自身のスキルをプレゼンテーションする場となっている。また協力企業においても人材確保の機会として協力をいただいており、毎年インターンシップから多くの内定が生まれている。また、海外実学研修は、スイス提携校、ハワイ提携校のもとに国際教育の一環として毎年実施している。		
	24-1 防災に対する組織体制を整備し、適切に運用しているか		【6-24-1】 防災計画を策定し、それに基づいて防火管理者を始めとして防災組織体制を構築している。また、年2回の避難誘導訓練を実施すると共に、ゲリラ豪雨や竜巻、地震など異常気象に備えて、学生の危機意識の確立を図って安全確保に努めている。			
	24-2 学内における安全管理体制を整備し、適切に運用しているか		【6-24-2】 安心安全な教育環境を学生に提供するために、自転車安全講習、薬物乱用防止講習、悪徳商法被害防止講習、女性犯罪被害防止講習など様々な安全講習を実施している。また、コロナ禍に伴い学生は実習など必要に応じてフェイスシールドも使用。トイレや手すり等公共で使用する場所は専門業者にて除菌実施。(2回/日)			

学校法人 滋慶学園 福岡ウェディング＆ホテル・IR専門学校 学校関係者評価委員会 会議資料

【令和5年6月14日実施】

令和4年度自己点検自己評価(令和4年4月1日～令和5年3月31日)による

学校関係者評価委員氏名 【 】

大項目	点検・評価項目	自己評価	点検・評価項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)	評 価	学校関係者評価委員よりの御意見
		適切に対応・・・4 ほぼ適切に対応・・・3 やや不適切・・・2 不適切・・・1			適切に対応・・・4 ほぼ適切に対応・・・3 やや不適切・・・2 不適切・・・1	
7 学 生 の 募 集 と 受 け 入 れ	25-1 高等学校等接続する教育機関に対する情報提供に取組んでいるか	3	【7-25-1】 高等学校等への情報提供窓口として専任の担当者を設けている。また、定期的・継続的に高校訪問を実施しているほか、各種媒体、入学案内パンフレット、各種ガイダンス、オープンキャンパス、ホームページなどを活用して、適宜適切に正しい情報をその提供に努めている。	＜入学選考の種類＞ AO入試 高等学校推薦 指定校推薦(指定校のみ実施) 一般入試(専願・併願) 社会人入試 ＜入学者選抜における配慮＞ ・願書の記載事項、面接での質問等を適正に行うための研修 ・障害のある受験者、LGBT等に配慮した選考 【学生募集活動】 ・学校認知強化 ・Web・ガイダンスからの資料請求者獲得 ・進路決定の早期化に対応すべく高校2年生以下へアプローチ ・校内、会場ガイダンス等、志望者との直接的な接触を重点に、そこからイベント参加者を獲得 ・高等学校からの信頼獲得(高校先生説明会、高校&部活動支援等) 【入学選考】 ・進路選択早期化に応じ、本人の意欲を重視するAO入学を実施 ・出願者本来の目的意識を引き出すための面接を実施 ・遠方からの出願者に向け、各地方選考会を開催 ・障害者差別解消法の実践の一つとして、入学予定者の合理的配慮の対応を滋慶学園本部組織の滋慶トータルサポートセンターと連携して実施している。 【学納金】 ・募集要項に卒業までに必要な学納金をすべて明示 ・学費サポートプランのツールを用意 ・学費ファイナンシャルプランナーを配置し、個々の状況に応じた対応 ・修学支援制度を積極的に告知し使用している。	3	・多岐にわたる業界でのスペシャリストの養成ができる御校のメリットをより周知することで潜在的な学生の確保につながるのではないかと。 ・オープンキャンパスで魅力的な体験授業をしてほしい。 学生スタッフの強化が必要。 ・認知度はまだまだ低いのではというのが正直な感想。 ただ魅力的なコースや充実したカリキュラムがあるため、より多くの方への認知が上があれば今後は問題ないと感じる。 ・業界は人材不足に直面していると感じる。
	25-2 学生募集を適切かつ効果的に行っているか					
	26-1 入学選考基準を明確化し、適切に運用しているか					
	26-2 入学選考に関する実績を把握し、授業改善等に活用しているか					
	27-1 経費内容に対応し、学納金を算定しているか					
	27-2 入学辞退者に対し、授業料等について、適正な取扱を行っているか					
8 財 務	28-1 学校及び法人運営の中長期的な財務基盤は安定しているか	4	【8-28-1】 毎年5か年の事業計画を作成し、中長期の視点で5か年の収支予算を立てており、財務基盤は安定している。 【8-28-2】 5か年計画及び単年度事業計画に基づいて、滋慶学園本部、法人本部、学校がそれぞれの立場から財務分析を行っている。 【8-29-1】 5か年の予算は、中長期を見越した新学科構想、施設・設備構想、人員構想等を考慮して支出を計画し、将来の学生数等を鑑みながら収入を予測し、収支計画を作成している。 【8-29-2】 予算の執行管理は計画的に行っている。4期に分け見直しを行っており、予算と執行金額との乖離がある場合は修正予算を組む。 【8-30-1】 学園本部と法人本部の二重チェックの体制となっており、学校の財務体制をしっかりと管理し、健全な学校運営ができています。 また収入と支出のバランスは、理事会で毎年確認されている。 さらに、監査は私立学校法上義務付けられている監事監査のほか、公認会計士による監査も受けている。 【8-31-1】 私立学校法に基づいて、ホームページで財務情報を公開している。現在は、令和3年度財務情報を記載しているが、決算理事会終了後の7月中旬を目途に、令和4年度財務情報に更新予定。	当法人の財務情報公開に関しては、下記の通りとなっている。 ＜組織体制＞ 1. 法人統括責任者 2. 学校統括責任者 3. 学校事務担当者 ＜公開資料＞ 1. 財産目録 2. 貸借対照表 3. 収支計算書 4. 事業報告書 5. 監査報告書 ＜閲覧場所＞ 法人本部 予算を正確かつ実現可能にするために以下のような取り組みを行っている。 ①単年度の予算を綿密に作成している。 予算は、事業計画の時点で、各部署ごとの予算から、予算項目別に細かく分類し、執行に関しても全て事前に、事務局長承認と常務理事承認が必要で、金額によっては、本部承認を得る流れとなっている。また消化金額は毎月の学内チェックと、サポート企業による3ヶ月ごとの修正と評価を受ける。 ②中長期(5ヶ年)での予算計画も組まれており、特に設備造作における改装や改築などの大掛かりな支出が想定されるものは長期で計画を行っている。 また、私立学校法上義務付けられている「監事による監査」を受けているが、それに加えて、補助金対象ではない当学校において「公認会計士による監査」も受けている。これによって適正な計算書類の作成とその信頼性の確保に努力している。 「財務情報の公開」については、規程と「情報公開マニュアル」に則して、情報公開に対処している点が特徴として挙げることができる。	4	・学生がもっとホテル、旅館(業界)を利用、体験ができる為の予算が欲しい。レストランでの食事、カフェ利用などもっと現場の空気感を体感できる為の費用を使いたい。 ・計画に基づき実施されている。
	28-2 学校及び法人運営に係る主要な財務数値に関する財務分析を行っているか					
	29-1 教育目標との整合性を図り、単年度予算、中期計画を策定しているか					
	29-2 予算及び計画に基づき、適正に執行管理を行っているか					
	30-1 私立学校法及び寄附行為に基づき、適切に監査を実施しているか					
	31-1 私立学校法に基づく財務公開体制を整備し、適切に運用しているか					

学校法人 滋慶学園 福岡ウェディング＆ホテル・IR専門学校 学校関係者評価委員会 会議資料

【令和5年6月14日実施】

令和4年度自己点検自己評価(令和4年4月1日～令和5年3月31日)による

学校関係者評価委員氏名 【 】

大項目	点検・評価項目	自己評価	点検・評価項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)	評 価	学校関係者評価委員よりの御意見
		適切に対応・・・4 ほぼ適切に対応・・・3 やや不適切・・・2 不適切・・・1			適切に対応・・・4 ほぼ適切に対応・・・3 やや不適切・・・2 不適切・・・1	
9 法令等 の 遵 守	32-1 法令や専修学校設置基準等を遵守し、適正な学校運営を行っているか	4	【9-32-1】 法令遵守については、滋慶学園グループ全体の方針として掲げ、各校の教職員全員でその方針を理解し、実行に努めている。法人理事会のもとに、コンプライアンス委員会で学校運営が適切かどうかを判断し、また学校運営が適切かどうかは各組織体制でチェックできるようにしている。 【9-33-1】 学校が保有する個人情報(資料請求者、在校生、卒業生、教職員、講師、実習先など)は個人情報保護法に基づいて、厳格に管理・保護されている。 【9-34-1】 自己評価は毎年中間評価と年度末の自己評価を実施する体制を整備し、評価を行っている。 【9-34-2】 自己評価結果は毎年ホームページにて公表している。 【9-34-3】 年に1回学校関係者評価委員会を開催し、評価・ご意見をいただいている。 【9-34-4】 学校関係者評価結果は毎年ホームページにて公表している。 (本校HP情報公開 学校関係者評価委員会) 【9-35-1】 教育に関する情報公開はホームページやパンフレット、SNSや学校新聞などに随時掲載している。	法令や専修学校設置基準の遵守に対する方針は、文章化し、法令や設置基準の遵守に対応する体制作りを整備している。 ＜法令順守に係る組織体制・システム＞ ◎組織体制 ①財務情報公開体制(学校法人) ②個人情報管理体制(滋慶学園グループ) ③広告倫理委員会(滋慶学園グループ) ④進路変更委員会(滋慶学園グループ) ◎システム(管理システム) ①個人情報管理システム(滋慶学園グループ) ②建物安全管理システム(滋慶学園グループ) ③防災管理システム(滋慶学園グループ) ④部品購入棚卸システム(滋慶学園グループ) ⑤コンピュータ管理システム(COMグループ) 教職員へは、法令や設置基準の遵守に関する教育または研修を実施し、周知徹底を図っており、今後も継続して行う。 本校は、一般社団法人 日本プライバシー認証機構「TRUST-e」の国際規定の認証を受けている。 また、職業実践専門課程の規定ならびに滋慶学園の情報公開規定に則り、公開していき、情報公開の方法は、ホームページへの掲載を通じて広く社会に公開できている。保護の観点から個人情報保護委員会を設置し、対策をとっている。教職員には教育と研修を通じて周知徹底できている。学内のネットワークに関しては、情報の漏洩が生じないよう、アクセス権の設定やグループ内サポート企業のみでの使用措置をとっている。 法令や設置基準の遵守に対する方針は明文化し、法令や設置基準の遵守に対応する体制作りは完全に整備できており、さらに、学校評価に関しては、「職業実践専門課程」の認定に際し、学校関係者評価委員会の設置がなされており、適切に評価を受け、また適切に情報公開もなされている。	4	・コンプライアンスの研修等、非常勤講師にも共有していただきたい。 ・素晴らしいといつも感じている。 ・適切な管理、対応を行っている。
	33-1 学校が保有する個人情報保護に関する対策を実施しているか					
	34-1 自己評価の実施体制を整備し、評価を行っているか					
	34-2 自己評価結果を公表しているか					
	34-3 学校関係者評価の実施体制を整備し評価を行っているか					
	34-4 学校関係者評価結果を公表しているか					
	35-1 教育情報に関する情報公開を積極的に行っているか					
1 0 社会 貢 献	36-1 学校の教育資源を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	3	【10-36-1】 近隣の子供会と連携した、ハロウィンイベント(10月) 2023年3月には子供会対象にテーブルマナー講座を実施。 【10-36-2】 留学生を対象とした学校見学会などを実施していたが、昨年はコロナの問題で実施を見合わせた。 社会的な様子をみながら今後の開催を検討したい。 【10-37-1】 障害者の方々へのドレス試着など、コロナ前までは活動出来ていましたが、今年度は学外、また他者を巻き込んだの活動は出来ていない状態。 今年度は地域の清掃活動など、コロナ感染と直接的に影響のないボランティア活動に尽力したい。	産学連携教育の一環で取り組む「企業プロジェクト」は毎年、企業からの制作依頼で取り組んでおり、一つの社会貢献・地域貢献となっている。 2022年度実績 ・一般社団法人ひかりのみちDMO福津:福津市イベントPRの取り組み ・高見株式会社:福岡でTAKAMIBRIDALのフォトウェディング成約上昇の取り組み ・ホテルエクレール博多:朝食の新メニュー、提供方法の提案 ・東京ドームホテル婚礼部:ホテルウェディングの新しい価値を創出する取り組み ・福津市観光産業課:ホテル宿泊税の活用方法提案 ・ヒルトン福岡シーホーク:レストランイベントの提案	3	・コロナ禍もひと段落したので地域貢献やボランティアに一層力を入れてほしい ・企業プロジェクトに力を入れてほしい。非常勤講師にも共有が欲しい。 ・常に外への視点があると感じる。 ・留学生などに対してはオンラインも活用し新たな企画も行いつつ、積極的な開催を検討願いたい。 ・環境に対しての取組もできると良い。
	36-2 国際交流に取り組んでいるか					
	37-1 学生のボランティア活動を奨励し、具体的な活動支援を行っているか					